

第285回 『インストラクショナルデザインの理論とモデル』輪読
第13章 複数の領域にわたる総合的学習を促進する
ブライアン・J・ベイティ

- テーマ中心型教授 (theme-based instruction) とは
- 理論的基盤 (脳研究の応用、多重知能理論)
- 利点
- 前提条件
- 実践に関する普遍的原理 (1、2-1、2-2、2-3、2-4、2-5)
- 実践に関する検討事項
- まとめ

テーマ中心型教授とは

- 総括的なテーマに複数の学習領域を盛り込み、学習を促進するアプローチ
- 具体的なカリキュラムのため
- 総括的(抱合的・根本的・基礎的)なテーマと直結した教授ゴール、活動、リソース、評価を伴う



理論的基盤（脳研究の応用）

- 脳研究に基づく教育的研究
 - 脳の生物学上の仕組みに働きかける学習環境と学習経験の提供
 - 脳研究から導き出された5つの学習原理
 1. 知能は経験と相関する
 2. 学習とは脳と身体の間不可分のパートナー関係である
 3. 問題解決や生産的な行為のためには、多様な知能と方法がある
 4. 学習とは2段階のプロセスである ①有意義な問題解決を通じてパターンを発見・識別し意味形成をする、②理解したことを利用して長期記憶に結びつける
 5. 人格は学習とパフォーマンスに影響を与える

理論的基盤（多重知能理論）

- 多重知能理論 (multiple intelligence theory)
 - ガードナーの10分類 (参考: [9分類](#))
 1. 論理・数学的
 2. 言語的
 3. 空間的
 4. 身体・運動感覚的
 5. 音楽的
 6. 個人の内面的
 7. 対人关系的
 8. 自然主義的
 9. 実存主義的
 10. 精神的



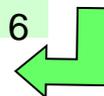
利点

- 教授内容と学習活動を総括的テーマと関連させることで学習を向上
- より自然な学習形態
- 個別地域の文脈を扱うのにふさわしい
- 特定の学習者集団に特有のニーズにフォーカスできる
- 単元の開発によって教師の成長を促すことができる



前提条件

- 教育制度における行政機構の種類と規模
 - 中央集権化していないこと
 - 監督が強力でないこと
 - カリキュラム指針に融通がきくこと
- 学校レベルの経営者
 - 協力的であること
 - リソースを豊富に用意できること
 - 個々の学習者のニーズに応じる構えがあること



実践に関する普遍的原理(1)

- メリルの教授の第一原理

1. 学習者にとって有意義な**問題**をインストラクションの中心に置く
2. 学習者の**先行知識**を活性化する
3. 学習者に新しい知識を**例示**する
4. 学習者に新しい知識を何らかの真正な方法で**応用**させる
5. 学習者が学んだことを教育場面の外の「現実世界」に**転移**させることを助ける

実践に関する普遍的原理(2-1)

- テーマ中心型教授の5つの基本的原理
 1. 学習者にとって興味深い、生活に直接関連のある、学習経験に豊かな環境をもたらす総括的テーマを利用して、没入感を満たすことのできる問題空間(学習のための実践の場)を提供する
 - 全体をガイドするテーマを設定する
 - 生涯学習に関する知見を考慮する
 - 選択したテーマを評価(修正、変更)する
 - 学習者にとっての有意義さ
 - 学習者(と教師)の関心の強さ、豊富さ
 - プログラムの目的達成への貢献度
 - 現実生活への実際の応用可能性
 - 学習者の年齢と経験をふまえた妥当性

•メリルの原理 1, 2



実践に関する普遍的原理(2-2)

- テーマ中心型教授の5つの基本的原理
 2. 学習ニーズ(教授プログラム／カリキュラムのゴール、学習者の関心や要望)を反映した、主要な学習ゴールを設定し、教授の焦点を合わせる
 - テーマはカリキュラムの主要な構成要素を組織化する
 - カリキュラムの主要な構成要素は、相互に関係する概念的テーマの拡張である
 - 各構成要素が学習の具体的なトピックを中心に配置され、単元の主要な学習ゴールを反映する
 - トピックは構成要素の一面であり、構成要素の基本的概念を学ぶのを助ける

•メリルの原理 1



実践に関する普遍的原理(2-3)

• テーマ中心型教授の5つの基本的原理

3. 経験学習のサイクルを玉ねぎの皮のように配置する

- サイクルを繰り返すにつれて、本来の学習ゴールの達成と、系統的なテーマの完了に到達する
- 学習者の概念的理解が、緩やかなものから速いものへ、小さなものから大きなものへ、単純なものから複雑なものへと移行するように授業を組み立てる
- 教授活動には、導入・例示・フィードバックを伴う練習・評価を伴う最終パフォーマンスなどが一般に含まれる
- 活動の実施には、教師と学習者の創造性と活力が求められると同時に、教師の状況に応じた即興性が必要になる
- 学習の広さと深さを確保するため、学習者が学んでいることを楽しく意義のある方法で応用する機会を多く提供する
- レベル差のあるクラスでは、マルチレベル教室を設定することもできる

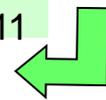
•メリルの原理 2, 3, 4



実践に関する普遍的原理(2-4)

- テーマ中心型教授の5つの基本的原理
 4. 教授活動に関連した、現実生活のリソースを使い、充実した環境をつくり出す
 - 学校内部
 - 学校外部

•メリルの原理 2, 3, 4



実践に関する普遍的原理(2-5)

- テーマ中心型教授の5つの基本的原理
 5. 学習を評価するのに真正な評価活動(仕上げの経験や活動)を用い、学習者の自己評価や他者との共同作業による評価も必要に応じて活用する
 - ポートフォリオ
 - 成果物の公開プレゼンテーションの準備
 - 成果物の省察と改訂
 - 評価対象となるパフォーマンスの決定、成果物の選択

• メリルの原理 4, 5



実践に関する検討事項

- 教師やその他の教育組織の重要なステークホルダーと価値観と信念体系(学習者中心、学問分野の相互関連性、過程中心、学習の個別性)を共有する
- カリキュラム計画と教授リソースの開発のために十分な時間を確保する
- 伝統的な教育プログラムの内容領域に対する思い込みを学びほぐし、カリキュラムや教授活動における教師の権力性を放棄する
- 学習が内容と教授手法と密接に結びつく、真正で有意義で妥当なアセスメントを採用する
- 標準化された評価システムに対応できるように配慮する



まとめ

- テーマ中心型教授は、有意義で真性で段階的な経験学習による学習効果の期待できる教授方略である
- 理論的基盤はあるものの、その有効性を裏付ける実証的研究はあまり見当たらない
- 実施形態は、短期的で単純な強化連携単元から、統合された教科融合的な複数年のプログラムまでである
- プログラム関係者の経験と支援、時間的な柔軟性、物理的環境の柔軟性、リソースの豊富さ、学習の個別化が設計時に重要な要素である
- メリルの教授原理をすべて満たすことによって、教授活動を成功に導くことができる

